



日本聖公会 北関東教区時報

発行所 日本聖公会 北関東教区文書部
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-172 電話 048-642-2680

使徒聖ヤコブ

司祭 パウロ 鈴木 伸明



いたようです。また、同じくガリラヤ湖の漁師だったペトロ、アンデレ兄弟と親しい間柄であった様子がうかがえます。

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」

(マルコ一・十七)

この言葉をかけられ最初に使徒となったペトロ、アンデレと共に主イエスから招きを受けたヤコブは、父と雇い人を残し、弟のヨハネと共に使徒となります。

このヤコブをゼベダイの子ヤコブと呼ぶのは、主イエスの使徒にはもう一人アルファイの子ヤコブがおり、二人を区別するためです。

ゼベダイの子ヤコブとヨハネの兄弟は、どうも気が短く腹を立てることが多かったためか、主イエスから「ボアネルゲス(雷の子ら)」という名をつけられています(マル

コ三・十七)。またルカによる福音書には、あるサマリヤ人の村で主イエスたちが村人から歓迎されなかったのに腹を立て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」(ルカ九・五四)と言ってしまい、主イエスから戒められた記事があります。

主イエスは、真理を示す場面や大切な状況の時、ペトロ、ゼベダイの子ヤコブ、ヨハネの三人だけを連れて行くのが常でした。このことからこの三人は主イエスの十二使徒の中で重んじられていた三人であったことがわかります。

主イエスが天に昇られ、聖霊を降された使徒たちは、教会(教会とは建物ではなく、主イエス・キリストを中心とする人の集まりを指しています)の指導者として活躍することになります。教会は当初から多くの迫害と苦難にさらされ、殉教する者も少なくありませんでした。

ヤコブは、使徒言行録十二章二節に書かれている通り、

主イエスを殺そうとしたヘロデ大王の孫、ヘロデ・アグリッパ一世により剣で命を奪われ、殉教することになってしまいます。十二使徒の中で最初に殉教したのがゼベダイの子ヤコブだったので。

続いて使徒言行録は、ヤコブの死をユダヤ人たちが喜び、ペトロも捕えられたと記していることから、教会の迫害はかなり激しく、教会に属するのは命がけだった現実を感じさせられます。

ゼベダイの子ヤコブにとって、父親、雇い人、網は生活の基盤を支える重要な存在でした。それをすべて打ち捨てて彼は主イエスの召しに従い、使徒の中で誰よりも早い殉教へと進んでいくことになりました。彼は決して完全な人間ではなく、怒りっぽい気の短い人であったけれども、主イエスに従い、命をかけて歩み続けた姿から、私たちは親しみを感ずると共に、多くを学ぶことができるのではないのでしょうか。

(川越基督教会牧師)

七月二五日は使徒聖ヤコブ日です。現在の教会暦ではこの日を日曜日に記念することはありませんので、私たちになじみの少ない聖日となっ てしまっていると言えるのではないのでしょうか。今回はこの使徒聖ヤコブについて学んでみたいと思います。

マタイ・マルコ・ルカによる福音書の記述によりますと、ヤコブはゼベダイの子ヤコブとして知られ、父ゼベダイのもとで、弟の福音記者使徒聖ヨハネと共にガリラヤ湖の漁師をしていました。彼らには雇い人がいたことから、漁業を比較的大きな規模で行って

若枝

信如岩

主教 ゼルバベル 広田 勝一



過日、水戸の信徒の方から、ご自身の祖父である元田作之進主教の書を寄贈いただいた。表装された立派な扁額で、「信如岩」とある。日本聖公会東京教区監督印もあるので、監督(主教) 按手後の作である。揮毫に巧みで良山と号した。

東京教区は、南東京地方部(ヘーズレット監督)と北東京地方部(マキム監督)から区域的に転入した二三の教会、三九二九人の信徒数を有する教区として一九二三年に成立した。その初代主教が、同年五月に選出された、当時立教大学長であった元田作之進師であった。

主教は本郷聖テモテ教会を式場として定め、十二月七日主教按手式が挙行された。苦境にありながらも復興を目指す大きな希望となった。

一年後の一九二四年十二月の教区会で元田主教は以下のように演説する。「二教区(東京・大阪)七地方部の中にいて最も多数の現在受聖餐者を有するものは我東京教区であるということはおかしな事実である。

面積よりいえば二教区七地方部の中に東京が最も狭く、教会の建物においても今日の東京教区は最も貧弱であり、教役者の数においては第五位であるが、信者の数においては第一位である、教区を組成するに最も重要なものは即ち信者にして教会堂は亡び、家財は焼かれても、信者の信仰にして動かされずは教区の

生命は持続すべく、これぞ我等が震災当時よりして、祈りし又励みもしたる所にして、今日教区が着々として以前の健康体に復帰しつつあるは之がためである、東京教区が未だ震災前の情態までには回復し得ざるも漸次健全に復興しつつあることを思うとき、信者各自の信仰の持続がその最大原因なりしことを忘れてはならないのである。」

元田主教は一九二八年四月急逝された。六六歳、主教として四年四ヶ月であった。この在位期間中に「信如岩」が書かれた。上述の演説の中にもこの言葉の意味を探ることができる。まさに「信仰は岩の如し」。

聖書にも「岩」に関連する記述は多い。例えば、出エジプト記「見よ、わたしはホルエブの岩の上でああなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる」(十七・六)。岩は、自然の意味にも形容的、象徴的にも用いられ

る。「主はわたしの岩」(詩十八・三)、「主のほかに神はない。神のほかに我らの岩はない」(十八・三三)、「主は命の神。わたしの岩をたたえよ」(十八・四七)、「神こそ、わたしの岩、わたしの救い、磐の塔。わたしは決して動揺しない」(詩六一・三)など詩編に多く見られる。

マタイ福音書には、「わたしも言っておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。」(十六・十八)とある。岩の上に建てられた「信徒の集まり」教会の信仰によって教区が発展していくという希望を三文字に秘めた可能性もあるであろう。

イエスは、「それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、揺りかき建ててあったので、揺り動かすことができなかった。」(ルカ六・四八)と語る。信仰の対象は神である。そ

の神は、まさに岩のように「確固たるもの、力、保護する者」である。また「主はわが岩、わが贖い主」(詩十九・十五)である。今九〇数年前の書を眺めつつ、今をしっかりと生き抜くように促される。



高崎聖オーガスチン教会募金の呼びかけ

高崎聖オーガスチン教会は、一八九二年吉村大次郎伝道師が市内に講義所を開設したことから歴史が始まり、一二五年の月日が流れました。

一九二九年に市内最古の鉄筋コンクリート製の建造物として建てられた聖堂は、十字架状平面の平屋に、ネオ・ゴシック様式の塔と身廊からなっています。設計は米国建築技師ウィルソンと推定されています。八八年の時を経て、今もなお人々の祈りの場、集いの場として用いられています。隣接する旧聖光幼稚園舎は、一九八八年に閉園を迎えた後も、教会の集会場として、また地域の NPO 法人の活動拠点として利用されてきました。

しかし、聖堂は経年劣化などによる老朽化が進み、雨漏りによって内部の壁の崩落が一部で起こり、また、集会場としてきた旧幼稚園舎は、修復や建て替えが必要な時期に

なりました。

二〇〇七年一月に行われた「受聖餐者総会」において聖堂の修復と旧園舎の集会場としての改築を目指して、教会で基金の積み立てを開始することを決め歩み続けてきました。しかしながら、思ったようには基金の積み立てが進まず、祈りの場として教会を整備すること、また地域のために働く拠点となること、その計画がなかなか進められない状況が続いてきました。

このたび、教区や多くの方々の協力を得て、聖堂聖別八八周年記念事業として、聖堂の修復と、旧幼稚園舎の改築の計画を実行に移すこととなりましたが、さらなる協力の必要があり、各教会に「高崎聖オーガスチン教会聖堂改修、集会場改築」募金趣意書が送られております。

本年五月に行われました「教区信徒一致の日」合同礼拝においても、高崎聖オーガ

スチン教会の修復・改修の計画をおぼえて祈り、信施をおささげしました。ぜひ今後とも、皆様のお祈りと共にお気持ちをお寄せいただき教会の歩みをお支えくださいますようお願いいたします。

〈聖堂修復と集会場改修計画〉

聖堂修復 二四〇〇万円
集会場改修 二四〇〇万円
解体費用 四〇〇万円

〈募金要綱〉

目標額 一〇〇〇万円
募金期間 二〇一七年十二月まで

振込先

振替口座
〇〇二五〇一七―八六四三〇
ゆうちょ銀行
店番〇四八
(普) 三三三五三二二一

名義

高崎聖オーガスチン教会



崩落した聖堂奥壁

◀拡大写真

教区婦人会「静想日」

美しい音楽に癒されて

癒されて

教養部 マグダラのマリヤ
柳沢 昌子

七月四日榛名聖公会においてアメリカ福音ルーテル教会キャロル・サック宣教師をお迎えして、「たとえ死の影の谷を歩んでもー寄り添うということ」と題して社会への奉仕リラ・ブレカリアの働き「ハープと歌による祈り」のお話をして戴きました。

キャロル宣教師は、この働きの目的が、目の前のお一人おひとりに「あなたはそのまま価値がある大切な存在、愛されている」と伝え、「呼吸に注意をはらいながらハープと歌を用いて共に時間を過ごす。これは音楽療法ではなく一つの祈りの形で音楽は言葉ではなしえない力がある。又、大切な事は、どれだけたくさんのご祈りや偉大なことをしたではなく、どれだけ心を

こめてしたかである」と語られました。

さらに、「美しい音楽は、この世とあの世を繋げる。昔は修道院で修道士や修道女は、死の床にある人の心の支えになり美しい音楽で癒し、絶対に一人にしなかった。そして、国の尺度を測るのは最も貧しい人の扱いである」とのお話をしながらハープを奏で美しい歌声を聴かせて下さいました。その音色を聴いていると心が静まり何とも言えない気持ちになり、いつまでもこの音色に包まれて癒されていたと思います。

キャロル宣教師は一人で沈黙の時を持つのも良いけど今日のようにコミュニティの中での沈黙も素晴らしいとおっしゃいました。本当に御堂の空気が清められたように思い清々しい気持ちになりました。

この静想の時に体調を崩された方がおられ、救急車を呼ぶという事が起きたのですが、周りの皆さんの対応に

感心させられました。騒ぐこともなく静かに、その方を送りだし静想の時を止める事もなく淡々と、でも、その方に想いを寄せて。その後、ハープと歌声を聴いた後の沈黙と静寂の中で、皆さんのお祈りが届いたのか数時間後に無事にお帰りになられました。何か神様がお守りになられたように思いました。

どんな時でも人に寄り添うという事は多くの言葉はいらない、ただ、傍に寄り添って心静かに見守る大切さを学んだように思いました。

最後にこの集まりに七十余名の方に参加して戴きありがとうございました。

(前橋聖マツテア教会)



草刈りと合同礼拝

マーガレット 中山 智子

六月十一日、栃木伝道区と下館の教会の信徒が「小山祈りの家」につどいました。午前中は早蕨幼稚園の先生がたと草刈りをしました。

「小山祈りの家」は現在「早蕨幼稚園」としても使われています。本来の園舎を建て替えるためです。先生がたが毎日整備してくださっている。ここに、園児たちの元気に遊ぶ姿が見えるようでした。

墓地周辺も広大な庭も、みなで協力してきれいにしました。汗をかいた体に当たる風が心地よく、ここに眠る人々の安らぎと幼子らの健やかな日々を祈りました。

午後からは三位一体主日・聖霊降臨後第一主日の合同礼拝をおこないました。

教役者と信徒が一堂に会し、祈る言葉も歌声も森のなかの聖なる場所に豊かにこだまして、それは素晴らしい礼拝でした。普段直接はお会いできないみなさんと同じ場所です。感謝で

いっぱいになりました。

つどいの喜びと同時に想いを寄せたのは、ここにつどいていない人々のこと、そして私たちからは遠く離れた所にいる人々のことです。世界中どのどんな状況にあってもその人たちが心穏やかでありますようにと願いました。

これからも、この交わりのうちに自分の役割を果たしていけたらと強く感じました。満ち溢れる自然のなかで素敵な日を過ごせたことに深く感謝しています。

(小山聖ミカエル教会)





夏の行事



日韓聖公会青年セミナー

日 時：8月3日(木)～7日(月)
日韓聖公会の青年が集い、東アジアの平和についての宣教課題を共有します。広島市や呉市でセミナーを開催し、神戸教区で行われている「広島平和礼拝」に参加します。

東京藝術大学 バッハカンタータクラブ 日光真光教会特別演奏会

日 時：8月12日(土) 入場無料
18時開演(17時半 開場)
住 所：栃木県日光市本町1-6
電 話：0288-54-3464
担 当：久保田智伝道師

神戸教区「中高生大会」

日 時：8月14日(月)～18日(金)
徳島で行われる神戸教区中高生大会に、宣教部を通して数名の青年を派遣し、北関東教区における中高生活動の活発化に向けて、学びを深めます。お祈りください。

宣教部「小学生キャンプ」

日 時：8月18日(金)～19日(土)
場 所：小山祈りの家
近年継続的に行われているキャンプです。各教会の小学生を集め、自然豊かな環境の中、楽しい交わりの時を過ごします。

宣教部「聖歌集勉強会」

日 時：9月16日(土)
10時半～15時半
場 所：大宮聖愛教会(昼食持参)
内 容：子どもと共に歌う聖歌
問合せ：川越基督教会
鈴木伸明司祭
電 話：049-222-1429
M a i l：nobuaki.suzuki@nifty.com
※詳細は7月中旬に各教会へ配布される案内をご覧ください

第8回「信徒・教役者の集い」

日 時：9月17日(日)～18日(月・休)
場 所：志木聖母教会
講 師：関田寛雄師
(日本基督教団牧師)
内 容：長く信仰生活を送っている方も、短い方も、求道中の方も、どなたにとってもとても意味のある、「キリスト教入門講座」を予定しています。
※後日、各教会に案内が送付されます。

連載

み言葉の礼拝⑥

悔い改めの祈り

父である神と、主イエス・キリストに招かれて、今、そのみ前にあることを、司式者と会衆とともに確認したわたしたちは、悔い改めの祈りを一同で唱えます。

聖餐式の懺悔は、聖餐の直前ですが、み言葉の礼拝では、参入のあいさつの直後となっています。聖餐式での懺悔の位置については、

礼拝史的に二つの流れがあり、ひとつが参入のあいさつの直後(ローマ典礼)、後のひとつが聖餐の直前(ミラノ典礼)です。現行の聖餐式でも、参入のあいさつの後に、懺悔の赦しの祈りを用いてもよいと、ルブリック(礼拝細字規定)にあります。

日常生活においてわたしたちは、神のみ心を生きたことより、自己中心の思いや社会の価値観に安易に従って生きています。しかし礼拝において、わたしたちは神のみ前にいます。神を知らなければ、自己中心

的に、また社会に合わせさせて生きることは、罪ではないでしょう。しかし神と出会ったわたしたちは、父である神と主イエス・キリストの思いと言葉と行いを知っているがゆえに、自分が罪深い者、神から離れている者であるとの自覚が、自ずと生じます。

ルブリックには、「ひざまずく」「しばらく自らを省み」とあります。ひざまずくことは、神のみ前において謙遜を現す姿勢で、神のみ前において罪人と自覚する者にとってふさわしい姿勢です。ここで自らを省みるとは、「個人懺悔」とのきのような具体的にひとつひとつの罪を思い起こすこととは違います。神と隣人に対して、思いと言葉と行いで、罪を犯してきた自分であるとの自覚を持つための時間です。長い沈黙の時を守る必要はありません。司式者が、会衆と話し合い、適当な時間を決めてくださればよいと思います。

そして、わたしたちの罪の赦しのために十字架上で亡く

なられた主イエス・キリストの贖いのみ業に信頼して、真実に罪を悔やみ、悔い改めの祈りを唱えましょう。

聖餐式と違い司式者による赦罪の宣言はありません。復活のキリストは、使徒たちに罪の赦しの権威を与えられ、その後継者である主教、そして主教からその権威を分与された司祭のみが赦罪を宣言することができます。わたしたちの日常生活で、人に赦され、また人を赦すことはしばしばあることですが、礼拝における赦罪は、キリストの教会の権威に基づくことだからです。

祈り終えた後、神の赦しのもとにある自分であるとの思いを持って、立ちましよう。立つことは、キリストの復活を現す姿勢です。キリストが死から新しい命へと復活されたように、罪の赦しにあずかったわたしたちも、キリストにあって、神と結ばれた新しい命を生きる者なのですから。

(司祭 木村 直樹)

洗礼おめでとう

六月四日

水戸聖ステパノ教会
マルコ 山田 実

六月二五日

水戸聖ステパノ教会
カタリナ 木村明日香

初陪餐おめでとう

六月十八日

大宮聖愛教会
マリア 齋藤 悠衣

堅信おめでとう

六月二五日

水戸聖ステパノ教会
マルコ 山田 実

カタリナ 木村明日香
マリア 大山 公子



とこしえの平和を祈りつつ

六月一日

小山聖ミカエル教会
ルツ 垂水由美子 (66)

六月十九日

榛名聖公会
ハンナ 輿石 愛子 (100)

六月二〇日

榛名聖公会
マーガレット 天沼 房恵 (87)

六月二三日

大宮聖愛教会
利根川 禮 (75)

